



# 地理的表示(GI)保護制度

地理的表示(GI)保護制度とは、2015年6月施行、「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(GI法)」に基づき、全国各地の風土や伝統が育んだ特色ある食品・農林水産物の名称を、国が登録するものです。

登録がなされると、生産者団体が定めた生産地や生産方法などの基準を満たす産品にのみ当該産品の名称の表示(II地理的表示(GI))を使用できるようになります。不正な地理的表示(類似等表示を含む)の使用は行政が取締ります。

GI登録産品は国際的に認知されており、世界の100カ国を超える国で保護されています。わが国と同等水準のGI制度を有する外国との間でGIを相互に保護する制度を整備しています。

GI登録は、さまざまな効果があります。品質を守るもののみが市場に流通することになる

ため、他産品との差別化やブランド価値を守ることにつながります。

また、地域の生産者は、既登録団体への加入や、新たに登録を受けた生産者団体の構成員となることで、地理的表示を使用可能になりますので、地域共有の財産として、産品の名称が保護されます。

22年3月2日現在では、115の産品が登録されています。

登録申請は無料です。審査の結果、農林水産大臣による登録がおこなわれる場合には登録免許税(9万円)の納付が必要です。更新料などは必要ありません。

登録申請に係る相談は、「GIサポートデスク(地理的表示保護制度活用支援 中央窓口)」へ。

## GIサポートデスク

電話：0120-954-2006

URL: <https://fmric.or.jp/>

gidesk/

## GI登録産品 (上 登録番号)

(下 登録名称)

2022年3月2日現在

### 北海道

- 4夕張メロン
- 21十勝川西長いも
- 86今金男しゃく
- 92檜山海参
- 101網走湖産しじみ貝

### 東北

- 1あおもりカシス
- 23十三湖産大和しじみ
- 52小川原湖産大和しじみ
- 75つるたスチューベン
- 90大鰐温泉もやし
- 105清水森ナンバ

### 関東

- 28前沢牛
- 47若手野田村荒海ホタテ
- 66若手木炭
- 68二子さといも
- 73浄法寺漆
- 106甲子柿
- 114広田湾産イシカゲ貝

### 中部

- 31みやぎサーモン
- 65岩出山凍り豆腐
- 104河北せり
- 【秋田】
- 32大館とんぶり
- 51ひばり野オクラ
- 60松館しほり大根
- 79いぶりがっこ
- 93大竹いちじく

### 山形

- 26米沢牛
- 30東根さくらんぼ
- 62山形セルリ
- 76小笹うるい
- 99山形ラ・フランス

### 福島

- 63南郷トマト
- 113阿久津曲がりねぎ

### 北陸

- 【新潟】
- 29くろさき茶豆

### 関東

- 81津南の雪下にんじん
- 109大口れんこん
- 【富山】
- 53入善ジャンボ西瓜
- 98富山干柿
- 112水見稲積梅
- 【石川】
- 17加賀丸いも
- 20能登志賀ころ柿
- 【福井】
- 14吉川ナス
- 15谷田部ねぎ
- 16山内かぶら
- 43上庄さといも
- 45若狭小浜小鯛ささ漬
- 69越前がに

### 中部

- 【茨城】
- 6江戸崎かぼちゃ
- 38飯沼栗
- 59水戸の柔甘ねぎ
- 71奥久慈しゃも
- 【栃木】
- 35新里ねぎ
- 【東京】
- 77東京しゃも
- 【長野】
- 13市田柿
- 34すんき
- 【静岡】
- 18三島馬鈴薯
- 36田子の浦しらす
- 103西浦みかん寿太郎

### 近畿

- 【滋賀】
- 56近江牛
- 85伊吹そば
- 【京都】
- 37万願寺甘とう
- 【兵庫】
- 2伯馬牛
- 3神戸ビーフ
- 78佐用もち大豆
- 【奈良】
- 12三輪素麺
- 【和歌山】
- 39紀州金山寺味噌
- 108わかやま布引たいこん

### 中国・四国

- 【鳥取】
- 11鳥取砂丘らっきょう
- 70大山ブロッコリー
- 72こおげ花御所柿
- 80大栄西瓜
- 【高根】
- 87東出雲のまる畑ほし柿
- 91三瓶そば
- 【岡山】
- 24連島ごぼう
- 【広島】
- 83比婆牛
- 84豊島夕チウオ
- 89大野あさり
- 97福山のくわい
- 【山口】
- 19下関ふく
- 40美東ごぼう
- 100徳地やまのいも
- 【徳島】
- 42米頭ゆず
- 【香川】
- 54香川小原紅早生みかん
- 82善通寺産四角スイカ
- 【愛媛】
- 10伊予生糸
- 【高知】
- 96物部ゆず

### 九州

- 【福岡】
- 5八女伝統本玉露
- 【長崎】
- 61対州そば
- 【熊本】
- 8くまもと県産い草
- 9くまもと県産い草
- 67くまもとあか牛
- 74菊池水田ごぼう
- 88田浦銀太刀
- 94八代特産晩白柚
- 95八代生薑
- 111くまもと塩トマト
- 【大分】
- 22くまもと七島蘭表
- 33大分かぼす
- 【高崎】
- 55高崎牛
- 64ヤマダイかんしょ
- 【鹿児島】
- 7鹿児島産壺造り黒酢
- 46桜島小みかん
- 57辺塚だいたい
- 58鹿児島黒牛
- 102えらぶゆり
- 115種子島安納いも

### 外国

- 【イタリア】
- 41プロシユット デイ パルマ
- 【ベトナム】
- 107ルックガンライチ
- 110ピントウアンドラゴ
- 【ニュージーランド】
- 44琉球もろみ酢

# 『資本主義の新しい形』

諸富徹著 岩波書店



2020年1月発行・2,860円

## 人的資本投資で日本経済の転換を

武本俊彦（新潟食料農業大学教授）

バブル崩壊から30年、日本経済は衰退を続けている。世界のトップを極めていた電器産業もいまや見る影もない。凋落原因を知り解決策を探りたい。本書がその解を示す。

まず、資本主義の本質が変わった。工場や土地といった物質的価値から知識や情報など非物質的価値の重視へと。典型はものづくりのサービス産業化だ。ものづくりで敗れた米国は1990年代によりがえる。重要なのは、知識であり無形資産である。中核に位置するのは人的資本である。しかし、日本は「よいものを造りさえすれば、必ず売れる」という供給側の論理に基づいて、巨大投資で大失敗を繰り返し没落した。

では、サービスで稼ぐものづくりとはどういうものか。農業分野ではドイツの化学・製薬企

業のバイエルを取り上げている。過去の農業散布や肥料の投入状況に加えて、地中のセンサーが測った温度など土壌の状況に関するデータを収集。それを衛星画像解析と農作物の生育診断に関する技術を用いて分析し、区画ごとに最適な農業の投入量や投入時期に関する情報を農家に提供した。農家にとっては単なる肥料・農薬メーカーではなく、コスト削減と作業の効率化による人手不足解消のコンサルタントだ。バイエルからみれば、ものを売るといふ関係だけでなく、肥培管理の面でのアドバイスを継続的に起こない、顧客の取り込みに成功している。

日本は、このようなものづくりのサービス産業化を含めて、現代資本主義の非物質主義的転回に対応できなかった。とりわけ、従来のものづくりの延長線上のビジネスモデルに固執して失敗したあげく、賃金引き下げというコスト削減に走り、教育訓練の軽視などの人的資本を毀損する悪循環を繰り返した。必要なことは、コスト削減ではなく、付加価値をどう伸ばし、労働生産性と炭素生産性を引き上げていくかだ。その場合、現代資本主義は放っておけば不平等と格差拡大を招くことになるから、人的資本投資の拡充を通じて、格差の是正と経済成長を促す成長戦略を一体的に実行することが必要になる。つまり同一労働・同一賃金を基軸に、雇用機会確保のための積極的労働市場政策と、脱炭素化のためのカーボンプライシングによって、産業構造の転換を図ることが重要と結論づけている。



読まれます 三省堂書店農林水産省売店における農林水産関連書籍 売り上げ上位10冊 (2022年2月1日~2月28日)

タイトル	著者	出版社	税込価格
1 政官要覧 令和4年春号	政官要覧社／著	政官要覧社	4,400円
2 国会便覧 152版 令和3年12月臨時版	シュハリ・イニシアティブ／編	シュハリ・イニシアティブ	2,985円
3 農林水産省名鑑 2022年版	米盛 康正／著	時評社	4,730円
4 農林水産六法 令和4年版	農林水産法令研究会／編	学陽書房	17,600円
5 逐条解説 漁業法	漁業法研究会／著	大成出版社	6,160円
6 どう考える？「みどりの食料システム戦略」(農文協ブックレット23)	農山漁村文化協会／編	農山漁村文化協会	1,100円
7 虚構の森	田中 淳夫／著	新泉社	2,200円
8 「やりがい搾取」の農業論	野口 憲一／著	新潮社	836円
9 季刊地域 No.47 2021年秋号(特集:使い切れない農地 どうする? 誰に託す?)	農山漁村文化協会／編	農山漁村文化協会	943円
10 日本の食と農の未来「持続可能な食卓」を考える	小口 広太／著	光文社	902円

## 水戸支店

### 肉用牛経営の事業承継事例などを学ぶ

茨城県農業経営アドバイザー連絡協議会(事務局:水戸支店)は、一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会会長の森剛一氏をはじめ、地域の若手担い手農業者や茨城県農業共済組合連合会を講師に招き勉強会を開催しました。

森氏は、事業承継時の相続税負担が重くなりがちな肉用牛経営を中心に、有効な事業承継方法について事例を交えて説明。出席者からは、「農業界の事業承継について、全国の事例や今後の動向をもっと知りたい」などの声が多数寄せられました。12月8日、於:水戸市、参加者:農業経営アドバイザー他42人



講師の説明を熱心に聴く出席者

## 岐阜支店

### 「飛騨就農支援塾」に出張講義

岐阜県、飛騨地方3市1村、飛騨農協が共催する、飛騨地方での若者新規就農者育成プログラム「飛騨就農支援塾」に、農業経営アドバイザーの資格を持つ支店職員が出張講義。「損益計算書と資金繰り」をテーマに、農業経営で必要な「キャッシュフローの考え方」について説明、併せて日本公庫が取り扱う「青年等就農資金」を紹介しました。

参加者からは「経営を発展させていくうえでのヒントが得られた」などのコメントがありました。1月12日、於:高山市、参加者:塾生である新規就農希望者11人



参加者は就農に向け熱い思いがみなぎっています

## 北見支店

### 農業を大学生の職業選択肢の一つに

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス(網走市)の学生にオホーツクの農業の魅力を理解してもらうべくセミナーを開催しました。約473名の農地を集積した農事組合法人勝山グリーンファーム代表の堺信幸氏、畜産を大規模に手掛けるトップファームグループ副社長の井上和明氏が自社福利厚生制度や求める人物像などを、また美幌町役場が新規就農支援策を説明。さらに、美幌町で農業と文筆業の両立をめざす吉田幸枝氏が、実際に「型にはまらない農の楽しみがある」と語りました。1月18日、於:網走市、参加者:学生など36人

学生からは「ライフプランを考えるうえでとても参考になった」などの感想が



学生からは「ライフプランを考えるうえでとても参考になった」などの感想が

## 近畿地区 総括課

### カーボンニュートラルに寄与する施策に強い関心

近畿の林業経営者有志で構成する「日本公庫近畿地区林業友の会」が「林業施策の動向」をテーマに講演会を開催。林野庁林政課長の清水浩太郎氏が森林・林業・木材産業の現状と課題を説明しました。

意見交換会では、参加者より、吉野林業の山守制度に代わる森林管理やスマート林業など持続可能な林業への取り組みが発表されました。また、カーボンゼロへ向けて「CO<sub>2</sub>削減には資源会社との連携が必要」「クレジットのルールづくりを」などの意見が出されました。2月3日、於:大阪市、参加者:9人(オンライン含む)



林業振興へ議論が交わされました



## ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)

※こちらのコードも  
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4  
日本公庫農林水産事業本部情報企画部  
AFCフォーラム編集部あて

◆2021年4月から、業務で林業にかかわるようになりました。主に書類のやりとりではありますが、現場に赴くこともあります。これまで林業に携わったことはなく、スギとヒノキの区別もつかない初心者でしたが、次第に林業用語に慣れてきたところです。2月号の「持続可能な国産材時代へ」の特集は、一端ではあります。林業にかかわる身として興味深く拝読しました。

林業は長期戦というイメージはあったものの、業務で携わる林業経営を見るに、想像をはるかに超える長期的な視点が必要と感じています。今の時勢に合わせて材の搬出ばかりに気を取られていては、数十年後の未来で国産材の供給不足が生じます。加えて特集にもありましたが、立木販売収入から次世代

の森林を育てるための再造林費用を賄える状況に至っていません。事実、主伐後の再造林について費用の面からなかなかうまくいかない事例は多くあります。

私自身、木や木製の家具などに対して温もりや癒やしを強く実感しており、『檜原森のおもちゃ美術館』のような木に触れて遊べる体験型ミュージアムはぜひ訪れたいと思えました。また、身近で使う木製品も、せっかくなら国産材を使用したいと考えています。伐って、使って、植える」というサイクルの確立には、まだまだ課題があるかと思いますが、国産材には外国材にはない良さがあると思うので、取り組みが広まっていくことを期待しています。

(静岡県浜松市 山下千晶)

## 編集後記

④ ウクライナ危機は「食料安全保障」を論じるにあたって世界各地の地政学的リスクも欠かせない重要な視点であることを再認識させた。世界的な人口増に伴う食料需要増や気候変動に伴う収量減少などに対応するにあたって、前提は「平和」があつてのこと。危機の早期終結を願い、「想定外の事象」と投げ出さず正面に捉えたい。(今村)

④ コロナ禍に大きく影響を受けた食料安全保障。今般のウクライナ情勢により、新たな局面を迎える可能性があります。早くもエネルギー・物流面を発端に食品供給・価格への影響が出ており、早急な対応が必要な場合も。政治・経済の変化が激しいグローバル環境を見通すことが求められる経営者の皆さまのかじ取りのご苦労が改めて身にしみました。(高雄)

④ 食料安全保障は壮大な世界観で語られる難しい話という印象でした。三井物産株式会社の佐野さんの寄稿を読み、身近に感じる食品の値上げとコロナ禍の世界的な食料供給が直結し、大きなうねりが生まれていることを改めて認識しました。食料安全保障の課題に自分がどう関われるか、4月から融資の現場で大きな宿題の答えを考えます。(山本)

④ 編集担当を卒業します。「地域再生への助走」は思い入れのあるコーナーの一つです。地域を想う熱い気持ちと情熱が生む創意工夫の取り組みを筆者から直接伺えることも多くありました。ワクワクしたり感動したり。それを誌面で伝えられることは編集者冥利につきました。今後とも、読者の皆さまに幸多いことを願います。感謝しています。(城間)

## AFCフォーラム 2022.4 春1号

### 編集

前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦  
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子  
竹中 夕美

### 編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

### 発行

株式会社日本政策金融公庫  
農林水産事業本部  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町1-9-4  
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー  
Tel. 03(3270)2268  
Fax. 03(3270)2350  
E-mail [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)  
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

### 印刷

株式会社佐伯コミュニケーションズ  
〒870-0847  
大分県大分市広瀬町2-3-21